



シラバス参照

タイトル「**2016年度 経済学部シラバス**」、フォルダ「**2016年度 経済学部シラバス**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	マクロ経済学		
担当教員	荒井 信幸		
対象学年		クラス	E1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	月4,水4	単位区分	
授業形態	講義	単位数	4
準備事項			
備考	標準履修年次 2年次		
科目名 (英語表記)	Macroeconomics		
授業の概要・ねらい	マクロ経済学の体系を学びます。授業はできるだけ教科書に沿って進めていきます。基礎理論とあわせて、日本や海外の実際の経済データを見て行くことで、現実を見る目も養って行きます。		
授業計画	回	内容	回 内容
	1	イントロダクション	16 金融政策とフィリップス曲線 (1)
	2	マクロ経済の計測	17 金融政策とフィリップス曲線 (2)
	3	経済成長の概観	18 安定化政策とAS/A D分析 (1)
	4	生産のモデル (1)	19 安定化政策とAS/A D分析 (2)
	5	生産のモデル (2)	20 世界金融危機と短期モデル
	6	ソロー・モデル (1)	21 消費行動
	7	ソロー・モデル (2)	22 投資行動
	8	アイデアと経済成長 (1)	23 政府とマクロ経済
	9	アイデアと経済成長 (2)	24 国際貿易
	10	労働市場・賃金および失業	25 為替レートと国際金融
	11	インフレーションの長期分析	26 有効需要と国民所得の決定
	12	中間試験	27 貨幣需要、貨幣供給と信用創造
	13	短期分析へのイントロダクション	28 IS/LM曲線と財政金融政策
	14	世界金融危機とその後の不況	29 マンデル・フレミングモデルと財政金融政策
	15	IS曲線	30 まとめ
到達目標	経済の長期的成長や景気の変動、金融危機など重要な経済問題について、最新のマクロ経済理論を踏まえながら、理解できるようになること。		
成績評価の方法	中間試験 (40%) ・ 期末試験 (60%) 。試験は持ち込み不可。		
教科書	チャールズ I. ジョーンズ(2011) 『マクロ経済学 (第I巻)、(第II巻)』 (東洋経済新報社)		
参考書・参考文献	宮川努・滝澤美帆(2011) 『グラフィック マクロ経済学 (第2版)』 新世社 ※その他、講義の中で紹介します		
履修上の注意・メッセージ	第1回目の授業で詳しいシラバスを配布し、授業の進め方について重要な説明をしますので、受講に関心のある方は、必		

	ず出席して下さい。
履修する上で必要な事項	
受講を推奨する関連科目	ミクロ・マクロ経済学入門を受講済みであること。ミクロ経済学Ⅰ、Ⅱも受講することが望ましい。
授業時間外学習についての指示	第1回目の授業で配布するシラバスに教科書や参考文献の関連部分を指定します。教科書は必ず入手し、講義に先立って指定された部分を、必ず予習してください。また授業中に練習問題を出しますので、必ず解いて、次回の授業に配布プリントとともに持参してください。
その他連絡事項	



Copyright (c) 2008 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.